

戦時下の市民生活と 川崎大空襲

令和5年3月11日(土)～5月7日(日)

月曜日と第3火曜日は休館ですが、祝日の場合は開館し、その直後の平日が休館日となります。

午前9時～午後5時 川崎市平和館 1階 屋内広場

京浜川崎駅付近の焼け跡

オープニングイベント 参加費無料、申込不要、定員250人

3月11日(土) 午後1時30分～ 川崎市平和館 屋内広場

- ① 「戦争体験を語る・聞く」～川崎大空襲のお話を体験者からお聞きします～
- ② 平和学習発表(親子平和推進事業)～東橋中学校の生徒が平和学習の成果を発表します～

- 公文書館展示 「疎開」
- 明治大学平和教育登戸研究所資料館 特別展示 参謀本部と登戸研究所による対中国謀略
- 東京大学大学院渡邊英徳研究室が市民や高校生と一緒に作った体験者のアーカイブ映像

主催 川崎市

協力 世田谷区立平和資料館、明治大学平和教育登戸研究所資料館、川崎中原の空襲・戦災を記録する会、東京大学大学院渡邊英徳研究室、法政大学第二中・高等学校社会科学・歴史研究部、幸市民館

問合せ 川崎市平和館 電話：044-433-0171

川崎大空襲について

「川崎大空襲」は、昭和20年4月15日午後10時3分に空襲警報が発令され、ほとんど同時に爆撃が開始されました。この日の攻撃目標は、川崎市や東京南部で、米軍の記録によれば川崎市等に対して、B29爆撃機194機が来襲し、焼夷弾^{しょういだん}12,748発(1,072トン)、高性能爆弾^{こうせいのうぼくだん}162発(18トン)、破碎性爆弾^{はさいせいばくだん}98発(20トン)を投下しています。

この爆撃によって、川崎市の中心部は市役所を残して一面の焼野原となってしまいました。

大空襲の被害は、全半焼壊家屋33,361戸、同工場等^{りさいしゃ}287、罹災者は10万人を超えています。

また、川崎市が空襲で出した死者約1,000人、負傷者約15,000人の大半は、この大空襲によるものとみられます。

ぜひ、ご覧いただき、改めて、平和の尊さについて考えてみませんか。



空襲で焦土と化した、市役所周辺



市役所職員による一人用避難壕(タコツボ)作り

【川崎市平和館】

〒211-0021 川崎市中原区木月住吉町33-1

電話：044-433-0171

Fax：044-433-0232

交通：JR南武線・JR横須賀線、東急東横線・目黒線

「武蔵小杉駅」から徒歩約10分、

東急東横線・目黒線「元住吉駅」から徒歩約10分

オープニングイベント

3月11日(土)午後1時30分～
川崎市平和館 屋内広場

①「戦争体験を語る・聞く」

～川崎大空襲のお話を体験者からお聞きします～

② 平和学習発表(親子平和推進事業)

～東橋中学校の生徒が平和学習の成果を発表します～

参加費無料、申込不要、定員250人

* 駐車場が狭いため、公共交通機関を御利用ください *

